

被害者による社会復帰・自立支援モデル構築活動 2年目開始

Foundation For Women (FFW)への委託事業「被害者による社会復帰・自立支援モデル構築のための活動支援」の2年目の契約が4月26日に結ばれ、活動が開始しました。

活動第一弾として5月27日にシーサケット県の村で Safe Migration ワークショップが開催されました。外国で人身取引の被害にあった帰国者の話を聞いた後、労働省の雇用局の職員と社会開発人間安全保障省の県のシェルターの所長が政府機関が実施している支援やサービス内容について説明されました。



今回は村の女性グループなどのタンボン(郡の下位にある村落集合体) 住民約 50 名が参加しました。参加者の大多数がこのようなワークショップに参加するのが初めてとのことで、帰国者の話や政府の担当者のお話を熱心に聞き入り最後のセッションまで参加していました。

グローバル化が進み、テレビやインターネットで簡単に情報が入手できる世の中になった今、都会や海外に働きに出ることを身近に感じられ、生活向上のためによりよい給料や待遇を求めて出稼ぎにでることは当たり前になりました。出稼ぎ自体は悪いことではありませんし、とめられるものでもありません。しかし問題は、出稼ぎに伴うリスクをきちんと理解せず事前に何

の下調べもせずに出発してしまい、その結果騙されてしまったり被害にあう人も多発しています。このようなワークショップを通じて事前に情報収集をしたり、万が一事故や被害に遭ったときの対処方法をきちんと考えるきっかけになればと思います。



今回のワークショップの運営および実施はすべてピアサポートグループ<sup>1</sup>のメンバーで行われ、当日の受付はもちろん、講師としてお話を頂いた政府機関の職員やタンボン自治体との調整、参加者集めや当日の司会進行等すべて自分達で率先してやっていたのが印象的でした。このようなプロセスを通じて社会とのつながりを持ち、自尊心を取り戻すことによってエンパワーされていくのだと思います。

#### [チーフアドバイザーの感想]

今回初めて、村落におけるピアサポート活動を見ることが出来ました。

海外出稼ぎ経験者や海外出稼ぎに興味を持っている約 40 人の女性と 10 人の男性がワークショップに参加していました。タイ東北部では男女両方が出稼ぎに行きます。同ワークショップでも女性二人と男性一人が各々の体験を語ってくれました。

先日、BATWC が主催する研修に参加した際に、

<sup>1</sup> ピアサポートとは「同じような立場の人によるサポート」といった意味で用いられる。

海外労働者受け入れ政策にジェンダーの視点がないことで、女性が脆弱な立場になりがちだという講義を聞きました。海外出稼ぎにおいて、多くの女性はお手伝いさん、エンターテイナー、レストランの給仕など、人にサービスを提供する仕事に従事します。これらの仕事は社会的ステータスも低く、ともすると従属的な立場に追いやられ、搾取されやすくなります。

そのような状況を危惧して女性がお手伝いさんとして海外出稼ぎに行くことを禁止する政策をとる国もあります。

しかしながら、女性のお手伝いさんとしての出稼ぎを禁止しても、貧しく高い技術を持っていない女性たちは、自分の家族のために、違法で国境を越えます。そして、海外で被害に遭った場合に、違法で働いているため、警察などに届け出ることができません。従って、より弱い立場に追いやられるという悪循環がみられるケースが多々あります。

上記は一例ですが、ジェンダーの視点を見落とすと、被害者の予防や保護をしているつもりが、結果として被害者をより脆弱な状況に追い込んでしまうということがありえます。今後も活動を行う上でどういうジェンダー視点が必要かを常にプロジェクト関係者や参加者と考えていきたいと思えます。

#### シーサケット家族と子どものシェルター訪問



今回の出張では、シーサケット家族と子どものシェルターも訪問しました。タウンハウスの一棟を賃貸しているこぢんまりとしたシェルターで、ソーシャルワーカー、心理学者、ホットライン 1300 の電話相談受付担当者などを含む 10 人の元気なスタッフで運営されていました。シェルターの所長さんは過去 10 年間女児用、男児用の孤児院でソーシャルワーカーとして働いており、現場の経験が豊富で質問にも丁寧かつ的確に答えて下さいました。

家族と子どものシェルターは短期滞在型シェルターですので人身取引被害者のみでなく児童虐待、DV 被害者、未成年の妊娠など様々な問題をかかえた方を受け入れます。シェルター滞在者のケアのみでなく、ホットライン電話相談受付、家庭訪問、コミュニティ向けのワークショップ開催など様々な業務を担当し、多忙な日々を送られているようでした。